

二〇一〇年度

大学入学式告辞(要約)

学長 伊藤 定良

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆さまにも、お慶び申し上げます。私たちは、昨年青山学院創立一三五周年、大学開設六〇周年を迎え、今年は未来に向けて新たなスタートを切ったところであります。皆さんには、新生青山学院大学の担い手になっていただきたいと心から願っております。



私たちは、大学を「創造の場」「学びの場」「出会いの場」と捉えております。大学は、問題を発見し解決する力を養うための「学びの場」であります。私は、皆さんが仮説と検証を繰り返して物事を究明しようとするチャレンジ精神の旺盛な学生であってほしいと望んでおります。そこで大切なのは、「初めに『問い』ありき」ということではないでしょうか。「なぜ」という問いから、皆さんにとって面白く感じ、関心を引く問題は何か、自分がやりたいことは何なのか、そうしたものを見つけ出し、それをしつこく追求することが大事だと思います。大学はそのための「学び」の宝庫なのです。講義やゼミ、図書館等の教育研究施設を大いに活用して下さい。また大学は、さまざまな生活体験をもった多くの人々の「出会いの場」でもあります。それを通して、皆さんは自分とは異なる発想



を「発見」し、自らの世界や認識を広げることになります。同時に、大学は地域や世界と結びついた「出会いの場」ともいえます。本学はアメリカのメソジスト監督教会の宣教師によって開かれた三つの学校を源流としており、まさに国際的な絆のなかで誕生しました。皆さんには世界に目を開き、海外留学等世界に歩み出て、多くの「出会い」を経験していただきたいと思えます。さらに、本学を取り巻く文化的環境を活かして、どうか美術館・博物館・劇場などで本物の作品に触れて下さい。皆さんは、多様な場に身を置くなかで、大きく成長することでしょう。現代は、しばしば「海図のない時代」といわれます。とりわけ一

昨年秋以来の経済不況のなかで、貧困・格差問題は深刻化し、環境・公害、飢餓、地域紛争など厳しい問題が私たちに突きつけられております。しかし他方で、人権や民主主義が世界大に広がり、核廃絶の動きが強まるなど歴史が動いていることも確かです。ヨーロッパ連合(EU)に象徴される地域統合が偏狭なナショナリズムを封じ込め、非政府組織(NGO)の活動が国際社会で無視できない位置を占めて、人と人との新たなつながりを生み出しております。こうした現代であるからこそ、新約聖書にある「地の塩、世の光」をスクール・モットーとする本学の人間教育はいっそう重要になっております。

最後になりますが、皆さんには、相模原・青山両キャンパスでの大学生活を通して、どうか皆さん自身のテーマを見つけ、それに応じ、徹底的に追求して下さい。そして、とりわけ「若さ」の特権であります「未知のものへの挑戦」をもって、皆さんの世界を大きく広げて下さい。本日はご入学まことにおめでとうございます。